

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4070502440
法人名	株式会社 深田商店
事業所名	小倉南ケアセンター和が家 グループホーム ユニット名 なごみ
所在地	福岡県北九州市小倉南区津田1-5-16
自己評価作成日	平成24年10月8日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先	http://kaigokensaku.jp/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 アーバン・マトリックス 評価事業部		
所在地	福岡県北九州市小倉北区紺屋町4-6 北九州ビル8階		
訪問調査日	平成24年11月19日	評価結果確定日	平成24年12月29日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

施設という閉ざされた空間で生活されている利用者に季節を感じいただける様にフロア内の装飾等も工夫している。又、単調な生活になりがちである為、レクリエーションや外出支援に重点を置き、変化のある毎日を過ごしていただける様に職員一同取り組んでいる。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

九州自動車道小倉東ICに程近い、交通量の多い場所に位置し、1階が居宅介護支援事業所とデイサービス、2階が2ユニットのグループホームとなる。開設して8年目を迎え、少しずつ重度化していく中ではあるが、新たに外出支援シートを作成し、日光浴や散歩を日常的に行えるよう取り組んでおり、職員への意識付けにもなっている。また、現在、センター方式を活用しながら情報収集を行っており、認知症ケアへの多面的なアプローチへと結び付けようとしている。家族の希望により日曜日に開催される運営推進会議は、家族の参加率も高く、自治会長や民生委員とともに、協力医や薬剤師、栄養士等の参加する機会もあり、最期まで安心して暮らし続けることが出来る場所であるよう、連携を密にしている。入居者の方々の豊かな感情表現や和やかな雰囲気からは、管理者、職員が、入居者の方々の心情や状態の変化に向き合い、「和が家」同様の居心地の良い環境作りに努めていることがうかがえる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
58	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:25,26,27)	65	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,21)
59	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:20,40)	66	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,22)
60	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:40)	67	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
61	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:38,39)	68	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)
62	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:51)	69	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
63	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:32,33)	70	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
64	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:30)		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎朝の申し送り時、職員全員で理念を唱和し、職員全員が理念に基づいた支援が出来るように努力している	地域密着型サービスとしての運営理念や基本方針とともに、ユニットごとに基本コンセプトを設定している。管理者は、職員の主体的な関わりや積極的な意見を期待しながら、現在のニーズや状況に合わせた再構築も視野に入れている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の行事に参加させて頂いたり、散歩等外出時に居合わせたときに挨拶をしたりと交流を持つように努力している	町内会に加入し、回覧板により情報共有を図っている。夏祭りや運動会等の地域行事開催時には、入居者の方のための席も設けられている。散歩の際には挨拶をしたり、庭に咲く花を頂いたり、日常の中で少しずつ交流を積み重ねている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域への貢献は出来ていない。地域の方との関係を深めてから取り組む努力が必要である		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	概ね2ヶ月に一度開催している運営推進会議に於いてホームでの活動報告を実施している。その際にいただいた意見等はサービスに取り入れて向上に活かしている	家族の希望により、日曜日に開催されており、家族の参加率は高い。地域より自治会長や民生委員、また、協力医や薬剤師、栄養士等の参加を得る機会もあり、情報共有や意見交換を行いながら、サービス向上に活かすよう取り組んでいる。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	地域包括支援センターの担当職員との方とは会議の連絡等に依り協力関係が築けるように努力している	グループホーム協議会の活動を通じて、行政担当者との交流会も開催されており、意見交換や情報共有を図りながら、協力関係を築けるよう取り組んでいる。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	立地条件を考慮し、防犯や安全優先の為、玄関の鍵は施錠しているが工夫をしながら施錠しない努力をしたい。身体拘束は実施者がいる為、家族に同意書を取り説明し、職員間に於いても毎日話し合いを持ち日々解除出来る様に取り組んでいる	ホームは2階に位置し、1階の出入口は施錠されている。閉塞的な暮らしとならぬよう、外出支援シートを作成し、日常的にベランダでの日光浴や体操、散歩等を支援している。やむを得ない事例については、家族や医師、行政担当者との話し合いを重ねながら、解除の視点を確保している。今後も継続して話し合う機会をもちながら、ケアのあり方について検討を重ねていく意向である。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	毎月カンファレンスで研修、話し合いを行い、職員全員の知識、意識を高め虐待を見逃す事がないように注意を払い防止に努めている		

福岡県 小倉南ケアセンター 和が家

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8	(6)	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護に関する内部研修を行った事があります。又、パンフレットを設置しているので希望者には説明をするようしている	権利擁護に関する制度については、資料を整備し、入居時に説明を行っている。これまでの活用実績や、必要性を検討した事例もあり、今後も継続して職員の理解を深めながら、活用に向けた支援が行えるよう取り組んでいる。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時は落ち付いた環境で時間をかけて十分な説明を行っており、家族の理解や納得を図っている		
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者の意見や不満については日々のケアの中で聞き改善に努めている。又、面会時や会議の中で家族との会話を多く持ち構えずに話していただける様に努めている	運営推進会議は、家族の希望にあわせ、日曜日に開催しており、全家族への案内を行い、実際に参加率も高い。協力医や薬剤師、栄養士等の参加もあり、情報共有が図りやすい。今後は、家族アンケートの実施等による、より積極的な意見収集の機会の確保や、家族機能活用に向けた働きかけにも期待します。	
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員の意見等は主任から管理者、施設長へとつなぎ反映出来る様にしている。又、会議に於いても全員参加して個々の意見を発言出来る機会を設けている	職員全員の参加を基本とする月例会議は、予め議題を決め実施しており、積極的な意見交換を促している。全体での協議や、法人としての検討を経て、運営への反映に努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の希望を取り入れた勤務表を作成し、勤務状況等を把握している。年二回自己評価を各職員から提出してもらい自己設定目標に向けて向上心を持って働く環境整備に努めている		
13	(9)	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	職員募集、採用時に性別、年齢等での採用排除はしていない。職員が能力を発揮出来る様内部研修や外部研修に参加出来る様取り組んでいる	主にハローワークを通じて募集を行い、グループホームとしての採用となる。男性職員も多く、現在安定している状況であるが、募集の際には、高齢者が好きな方やスキルアップへの姿勢を重視し、年齢や性別による排除は行っていない。希望休の取得に向けた配慮や、資格取得を積極的に促し、人事考課制度も採用しながら、働きやすさやモチベーションの確保に向けた取り組みを行っている。	
14	(10)	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	日頃より接遇及び人権の尊重については内部研修を実施している。又、外部研修にも参加し、教育啓発に取り組んでいる	外部研修への参加や内部での伝達、また、認知症に関する内部研修の機会も多く、人権教育、啓発へと結び付けている。人権マニュアルが整備されている。	

福岡県 小倉南ケアセンター 和が家

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
15		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	入社して間もない職員やさらなる能力向上を考えて地区で行われる研修等参加を呼びかけている。又、資料等教えることが可能な知識はカンファレンス時に社内研修を実施し補う形をとっている		
16		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	研修で職員が参加し、そこで同業者とのグループワークを行う事で情報交換を実施する。さらに報告書を記載し回覧する事で社内で情報を共有している		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
17		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	まず本人と面談を実施し、体験入所の形をとる。そこで事前に仕入れた情報や要望をもとに職員が利用者へ過ごしやすいように環境を作る努力をしている		
18		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	体験入所の前に家族に施設見学を行ってもらい雰囲気や味わってもらう。そこで要望や不安があれば聞き取り十分に対応できる様に話し合いを行い準備に努めている		
19		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	家族、本人の話を聞き何が必要か、どう対応すれば不安要素を取り除けるか等話し合いを設けることで様々な利用者に対応できる様努めている		
20		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人の性格や個性を理解し、利用者だけでなくその場にいる人々が共に生活出来るように住みやすい環境を作れるように努力している		
21		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	隔月に1回等家族が集まる集会を実施し、そこで共に支援を考える話し合い等設けている。また行事に参加して頂き喜び等感情を共感して頂く場を作るようにしている		
22	(11)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人の記憶や家族の思い出など大切にしているつながりを忘れないように話を広げたり共有する事でいつまでも関係が途切れないように支援に努めている	家族や親族の協力も得ながら、馴染みの場所までコーヒーを飲みに出かける方や、昔の写真を見ながら、回想を語ってもらい、個別の人生史や関係性について把握するよう努めている。今後のアセスメントの充実が、新たなアプローチへと結び付くことが期待されます。	

福岡県 小倉南ケアセンター 和が家

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
23		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者1人1人の性格を把握し、利用者同士が和をもって生活出来るよう支援している。何か問題が発生しそうな時は職員が仲裁に入り良い関係が保てる様支援している		
24		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所された利用者の家族との連絡を取り入院された方には御見舞いに行ったり、亡くなられた時には葬儀に参列させていただいたりしている		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
25	(12)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の生活の中で1人1人の思いや暮らしの方の希望意向を聞き取り職員同士で話し合い対応出来る様努めている。又、家族からの協力も頂いている	職員は、意思の表出が困難な方の、微かな表情の変化を受け止めている。現在、管理者やケアマネジャーを中心として、センター方式を活用した情報収集を行っており、今後の内容の充実やケアへの反映、職員の積極的な関わりが期待される。会話の中から見出された思いや意向については、介護計画への反映に努めている。	限られた人員と時間の中で、センター方式の全てのシートに順番に記入していくことにとらわれず、その方にとって、今、必要とされる内容を選択し、様々な要因をひもといていくことや、潜在する可能性を高めていくことを、本人本位に検討していくことが望まれます。
26		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所の際に本人及び家族からの情報収集を行うと共に居宅支援事業者や入所施設等とも連携し、暮らしの把握に努めている		
27		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	1人1人の生活ぶりは生活日誌に健康状態は健康管理シートに記録を残し職員間で情報を共有化し把握出来る様努めている		
28	(13)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人、家族の要望に耳を傾けアセスメント実施後、カンファレンスを行い、それぞれの意見を反映した介護計画を作成している	日々のケアプラン実施状況の確認や、担当職員による毎月のモニタリング、ユニットごとのカンファレンスを通じて、現状の確認や見直しの必要性について検討している。	
29		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	利用者の日々の生活ぶりや気づき実践、結果等を毎日個別に記入している。又、個別記録の内容を用いカンファレンスを実施し介護計画の見直しに活かしている		

福岡県 小倉南ケアセンター 和が家

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	同一敷地内にあるデイサービスでの行事に参加したり、全員参加の行事等ではデイサービスフロアを活用している		
31		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の方々やボランティア等の関わりや地域の行事参加をしたりと安全で豊かな暮らしを楽しむ事が出来るように支援している		
32	(14)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族の意思で決められた、かかりつけ医と協力して適切な医療が受けれる様に援助している	入居の際に、かかりつけ医について確認している。協力医による2週間に1回の往診に加え、年2回、運営推進会議にも参加を得ており、密な連携が図られている。健康管理シートや受診結果シートを用い、関係者間での情報共有が図られている。毎週、薬剤師が訪問し、状況の把握に努めている。	
33		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	利用者に変化があった場合、すぐに報告、相談を行い、今後の対応等についてアドバイスを受けている。往診には同席してもらい情報の共有を行っている		
34		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には介護サマリーを作成して持参し、病院の看護職との連携を図り利用者の面会を行い家族の許可の下、説明時にも同席させていただき病院関係者との関係作りに努めている		
35	(15)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時に看取りについての説明を実施している。又、入所中に重度化した場合、医師の協力の下、看護師、介護職を交え、家族に十分に説明を行い方針を共有し、チームで支援に取り組んでいる	入居時に、看取りに関する指針を示し、同意を得ている。緊急時の対応に関する説明や意向確認、また、日常の会話の中でも、本人、家族の意向の確認に努めている。状態の変化に伴い、家族や医師を交えた話し合いを重ね、方針を共有しながら、これまでに看取りを行った経緯もある。グループホーム協議会主催の研修に参加し、伝達が行われている。	
36		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	消防署の協力のもと、非難訓練、応急手当の指導を受けている。急変時は作成したマニュアルをもとに指導を受けている		

福岡県 小倉南ケアセンター 和が家

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回消防署の協力の下、避難訓練を実施、その際に昼、夜と設定し避難方法を身に付けている。地域の消防団の方との協力体制を今後しっかりと築いていける様に努力中である	年2回、消防署の協力を得て、昼夜を想定した避難訓練を実施している。道路向かいのコンビニエンスストアへの声かけや、地域消防団への働きかけが行われている。備蓄品が用意されている。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
38	(17)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人権尊重及び個々のプライバシー確保には職員一同十分に配慮している。又、声掛けは接遇の内部研修を行っている	認知症ケアについての内部研修の機会が多く、コミュニケーションや対応について、誇りやプライバシーを損ねることのないよう意識を高めている。個別の生活習慣や時間の流れの尊重に努めている。	
39		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活の中で利用者の意志や要望を聞いて自己決定して頂いている。その際利用者に分かりやすく説明する様心掛けている		
40		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者主体の介護が出来る様、職員一同取り組んでいる。何もしたくない利用者等にはゆっくり過ごして頂いたりしている		
41		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	利用者の希望を伺い訪問理美容を行っている。介助の必要な方は職員が選択して介助しているが自己選択可能な方は自分で選んでもらっている		
42	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者と職員が食卓を共にし、一緒に食事をしている。又、食後の片付けは利用者と職員と一緒に協力しながら行っている	日曜日以外の昼食や夕食は、1階厨房での調理となり、炊飯のみホームで行っている。職員も同席し、食卓を囲んでいる。家族の協力も得ながら、個別の外食も支援している。	
43		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分、食事の摂取量をきちんと記録し利用者の摂取状況を職員が把握している。栄養士のメニュー作成に依り、バランスの取れた食事提供が出来ている、嚥下能力等の低下した利用者には個々に合わせた食事形態で食事が摂れる様にしている		

福岡県 小倉南ケアセンター 和が家

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、自分で出来る方は自分で行き、出来ない所を介助しています。出来ない方には誤嚥に注意しながら口腔ケアをして清潔保持が出来る様に支援している		
45	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	できる限り、トイレでの排泄を目指し、本人のトイレのタイミング等を掴み、排泄チェック表を使って自立に向けた支援を行っている	排泄チェック表を用い、個別の状況確認やパターンの把握に努めている。協力医や法人内専門職の連携を活かし、カンファレンス等にて協議を行い、排泄の自立に向けた支援を行っている。	
46		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日排便チェックを行い、水分量や食事量のチェックを行い、予防に努めています。運動なども個々に応じて予防に努めています		
47	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	毎日のバイタルチェックに依り体調を確認し、本人同意の下、本人の希望に沿う様に支援している。又、入浴の好みを把握し楽しく入浴していただけるように支援している	隔日の入浴スケジュールを基本とするが、希望や状況、体調等を鑑み、シャワー浴も含む、柔軟な対応を行っている。	
48		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	各自の体調、意志を考慮して休息を行っています。又、それぞれの生活ペースに合わせて、安眠出来る様に環境整備を行っている		
49		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬支援と症状の変化については薬剤師に個々の利用者の薬について説明して頂いて。又、その情報を記録し職員一同情報共有出来る様に努めている		
50		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	各利用者の出来る事、したい事を見つけ生活の中での役割を見つけ定着させています。又、レクリエーションを多種類考え楽しみとなる様に支援している		

福岡県 小倉南ケアセンター 和が家

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51	(21)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	外出支援シートを作成、活用し、日頃から戸外に出かけられる様に支援している。又、地域の行事にも参加している。定期的に家族と外食を楽しむ方もおられる	外出支援シートを作成し、散歩や日光浴を日常的に行えるよう取り組んでいる。少しずつ重度化している中で、地域行事(どんど焼き、神幸祭、夏祭り、運動会)や初詣、ピクニック等に出かけている。地域の夏祭りには夜8時から出かけ、多くの入居者の方々が参加している。	
52		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	小口現金としてホームで預かり保管しているが、利用者の希望に依り使用出来る様になっている。職員同行での買い物時には支払いもされる		
53		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	全体的にADLが低下され、本人からの電話や手紙のやり取りの要求がなくなっているが本人への手紙等はすぐに手渡している。電話が掛かって来た場合も本人自ら電話口に出てもらう様にしている		
54	(22)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有の空間は天窓からの自然の光を取り入れ、照明も光の強さに注意している。又、フロア内は季節感が感じられる様に季節に合った壁紙等取り入れ、居心地の良い空間作りに取り組んでいる	清潔感ある共用空間には各所に加湿器も置かれ、手洗い、うがいの励行等、感染症予防や快適な空間作りへの細やかな配慮が行われている。食卓やソファー等、くつろぎの場所が確保され、季候の良い時期には、広いベランダでの日光浴が恒例となっている。	
55		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有空間にはソファーを二ヶ所設置しており、独りで過ごす、気の合った利用者で過ごす、読書をする等思い思い過ごせる場所になっている		
56	(23)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入社時に家族や本人と相談し、使い慣れた物を居室に持って来て頂き、居心地良く過ごせる様に工夫している	昔ながらの茶筆筒や仏壇等、馴染みの物や大切な品が持ち込まれ、安心して、居心地良く過ごせるよう配慮されている。	
57		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物内は高齢者の方でも解りやすい様に大きな文字で表示している。共有空間には手すりを設置しており利用者が安全に移動出来る様にしている		